

食品安全委員会の6月の運営について

1. 食品安全委員会の開催

第288回 6月4日（木）

(1) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (1品目)	ピリフルキナゾン
------------------	----------

(2) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

特定保健用食品 (1品目)	グルコバスター カプセル
------------------	--------------

(3) 第77回国際獣疫事務局（OIE）総会の概要等についてリスク管理機関から報告

- 韓国政府から韓国産牛肉の対日輸出の許可の要請があったとの説明を踏まえ、韓国を「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価」の対象に加えることとし、今後、プリオン専門調査会の見解に従って評価を進めていくことを決定

(4) 食品安全委員会の5月の運営について事務局から報告

第289回 6月11日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬（6品目）	アゾキシストロビン、シフルメトフェン、フルオピコリド、プロピリスルフロン、メトキシフェノジド、フェントエート
---------	--

(2) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

添加物専門調査会 (2品目)	亜塩素酸ナトリウム、3-メチル-2-ブタノール
農薬専門調査会 (1品目)	メトラクロール

(3) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(1品目)	ジメテナミド
---------	--------

(4) 専門調査会の所掌の変更及び専門委員の改選について事務局から説明後、案のとおり決定

(5) 平成20年食中毒発生状況の概要についてリスク管理機関から報告

第290回 6月18日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明

(評価要請の取下げ) 新開発食品 (1品目)	ライフナビ カルシウムを含むお茶
------------------------------	------------------

- ・「ライフナビ カルシウムを含むお茶」については、評価要請の取下げとして処理することとなった

(2) 各専門調査会における審議状況についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (1品目)	ピリミノバックメチル
動物用医薬品専門 調査会(2品目)	カラゾロール、ケトプロフェン

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

動物用医薬品 (3品目)	クレンプテロール、塩酸クレンプテロールを有効成分とする牛の注射剤（プラニパート）の再審査、塩酸クレンプテロールを有効成分とする馬の経口投与剤（ベンチプルミンシロップ）の再審査
-----------------	---

(4) 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成21年5月分）について事務局から報告

第291回 6月25日（木）

(1) 各専門調査会における審議状況についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (1品目)	アルジカルブ、アルドキシカルブ
動物用医薬品専門 調査会(2品目)	豚サーコウイルス(2型)感染症(1型-2型キメラ)(デキストリン誘導体アジュバント加)不活化ワクチン(スバキシンPCV2/スバキシンPCV2 FDAH)、ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合生ワクチン(アビテクトNB/TM)
化学物質・汚染物質 専門調査会 (1案件、5物質)	米のカドミウムの成分規格の改正、清涼飲料水関連5物質 ①クロロホルム、②ブロモジクロロメタン、③ジブロモクロロメタン、④ブロモホルム、⑤総トリハロメタン
遺伝子組換え食品 等専門調査会 (1品目)	XAS株を利用して生産されたヘミセルラーゼ

(2) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(2品目)	スピロメシフェン、ビフェントリン
動物用医薬品 (1品目)	カルプロフェン
遺伝子組換え食品等 (1品目)	G G I 株を利用して生産されたL-グルタミン
微生物・ウイルス (1案件)	鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニ/コリ
新開発食品 (1案件)	体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品
飼料添加物 (1品目)	ノシヘプタイド

- (3) 食品安全モニターからの報告（平成21年4月分）について、4月中に報告された25件について事務局から報告

- (4) 食品安全委員会委員としてのこの3年間を振り返って各委員から発言

2. 食品安全委員会ワーキンググループ会合の開催

食品による窒息事故に関するワーキンググループ

第1回 6月10日（水）

- ・食品による窒息事故に関するワーキンググループの設置、運営等について説明がなされ、了承された
- ・今回の諮問の経緯について、内閣府国民生活局から説明
- ・今後の調査審議の進め方として、食品による窒息事故の要因を明らかにし、その結果を踏まえ食品による窒息事故の低減・防止に関する意見を取りまとめることを目的とし、窒息事故の発生状況及び事故事例の分析、窒息事故の要因分析並びに海外の規制等の内容を調査審議事項とすることについて、了承された
- ・食品による窒息事故の発生状況等について、昭和大学歯学部 向井教授から、平成19・20年度厚生労働科学特別研究事業により集約された科学的知見について説明、続いて、東京消防庁防災部生活安全課 清水課長から東京消防庁管内における食品による窒息事故の発生状況等について説明

3. 専門調査会の運営

(1) 企画専門調査会

第30回 6月23日(火)

- ・平成20年度食品安全委員会運営計画のフォローアップについて審議し、原案のとおり食品安全委員会に報告することを決定
- ・平成20年度食品安全委員会運営状況報告書(案)について審議し、原案のとおり食品安全委員会に報告することを決定
- ・平成21年度自ら評価案件選定の進め方について、各委員の意見を踏まえ、事務局において更に検討することとなった
- ・「食品安全委員会の改善に向けて」に基づく改善の取組について、事務局から説明

(2) 添加物専門調査会

第72回 6月22日(月) ※第59回新開発食品専門調査会と合同で開催

- ・「高濃度にジアシルグリセロールを含む食品の安全性」について、国立がんセンター研究所 若林所長から、「ジアシルグリセロール(DAG)の大腸がん促進作用試験」及び「マウス皮膚二段階発がんモデルにおける、高濃度にジアシルグリセロールを含む食用油の発がんプロモーション活性の検討」について説明後、評価書(案)について再度検討を行い、次回以降、引き続き審議することとなった

第73回 6月29日(月)

- ・「2-エチル-5-メチルピラジン」及び「5, 6, 7, 8-テトラヒドロキノキサリン」について調査審議し、評価書(案)を食品安全委員会に報告することを決定
- ・フルジオキソニル評価書案に対して寄せられた御意見について検討した結果、回答案及び評価書案を、農薬専門調査会と調整の上、食品安全委員会に報告することとされた

(3) 農薬専門調査会

第24回 確認評価第一部会 6月10日(水) ※非公開

- ・「キザロホップエチル」及び「ペントキサゾン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第52回 幹事会 6月12日(金)

- ・「塩酸ホルメタネート」、「スピロメシフェン」及び「ビフェントリン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・国民からの御意見・情報の募集期間中に、プロパモカルブ評価書(案)に対して寄せられた御意見について検討した結果、回答(案)及び評価書修正(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとを決定
- ・国民からの御意見・情報の募集期間中に、フルジオキソニル評価書(案)に対し寄せられた御意見について検討した結果、回答(案)及び評価書修正(案)を一部修正することとなり、引き続き添加物専門調査会で審議される予定
- ・「化学物質の発達神経毒性評価手法に関する情報収集調査」について、調査実施者より報告された後、質疑応答を行った

第31回 総合評価第二部会 6月24日（水） ※非公開

- ・「1-メチルシクロプロペン」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、幹事会に報告することを決定
- ・「エチクロゼート」及び「フラメトビル」について調査審議し、継続審議となった

第24回 確認評価第二部会 6月30日（火） ※非公開

- ・「グルホシネート」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

（4）動物用医薬品専門調査会

第111回 6月19日（金）

- ・「オラキンドックス」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・動物用医薬品の安全性評価基準（案）について、事務局から動物用医薬品の安全性評価基準（素案）に関し説明し、今後、内容を検討していくこととされた

第112回 6月19日（金）※非公開

- ・「性腺刺激ホルモン放出ホルモン・ジフテリアトキソイド結合物を有効成分とする豚の注射剤」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

（5）器具・容器包装専門調査会

第5回 生殖発生毒性等に関するワーキンググループ 6月8日（月）

- ・ビスフェノールAの食品健康影響評価に関して、小グループで議論された厚生労働科学研究分担研究報告書（菅野分担研究者）に対するコメントについて審議を行い、次回ワーキンググループまでに内容を修正し、ワーキンググループとしての考え方を整理することとなった
- ・ビスフェノールAの評価書（案）について、事務局から説明が行われ、次回ワーキンググループまでに内容を精査し、修文、追記等を行うこととなった

（6）化学物質・汚染物質専門調査会

第5回 幹事会 6月11日（木）

- ・米のカドミウムの成分規格改正に係る食品健康影響評価に関して、汚染物質部会で審議・了承された評価書第2版（案）について、現在設定されている耐容週間摂取量 $7 \mu\text{g} / \text{kg}$ 体重/週を変更する必要はないとする評価結果が了承され、一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・清涼飲料水中の化学物質（クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブromoホルム、総トリハロメタン）の規格基準改正に係る食品健康影響評価に関して、清涼飲料水部会で審議・了承された評価書（案）について了承され、一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
なお、清涼飲料水の評価に係る化学物質を対象にした「ベンチマークドース（BMD）アプローチを用いた評価について（案）」は、修正の上、幹事会で再審議されることとなった
- ・「食品中のヒ素」について「食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価」の案件に決定されたことを事務局から報告し、今後、座長と事務局において審議体制案を検討し、幹事会専門委員の了承を得た上で、汚染物質部会で審議していくこととなった

第7回 鉛ワーキンググループ 6月17日(水)

- ・鉛の食品健康影響評価について、ヒトの健康に悪影響を及ぼさないと考えられる血中鉛濃度について審議し、小児については、主にIQに影響指標とした疫学研究結果から $4\mu\text{g}/100\text{ml}$ 以下とされ、成人については、低レベルの血中鉛濃度と有害影響との関係を示唆する疫学研究の知見について、小グループにより確認した上で、再度審議することとなった

(7) 遺伝子組換え食品等専門調査会

第71回 6月19日(金) ※非公開

- ・「高オレイン酸含有ダイズDP-305423-1(食品・飼料)」について調査審議し、継続審議となった
- ・「XAS株を利用して生産されたヘミセルラーゼ」について調査審議し、指摘事項を確認の上、評価書(案)を了承することとなった
- ・「除草剤グリホサート耐性ワタGHB614系統(食品・飼料)」について調査審議し、食品については指摘事項を確認の上、評価書(案)を了承することとし、飼料については、次回に審議することとなった

(8) 新開発食品専門調査会

第58回 6月8日(月)

- ・専門委員の互選により、池上専門委員が座長に選出された
- ・体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品に係る安全性について、事務局から意見交換会の概要、国民からのご意見・情報の募集結果及び回答(案)について説明後、審議を行い、評価書及び国民からのご意見・情報の募集の回答について一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

第59回 6月22日(月) ※第72回添加物専門調査会と合同で開催

- ・(2)の第72回添加物専門調査会と同様

3. 意見交換会等の開催

食品に関するリスクコミュニケーション

ー鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニ/コリの食品健康影響評価についてー

6月3日(水) <福岡県福岡市>

6月5日(金) <東京都新宿区>

- ・食品安全委員会の主催で開催し、牧野壯一食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会ワーキンググループ座長から、微生物リスク評価の審議経緯、微生物のリスク評価の流れ、当該意見交換会の目的について説明後、続いて、春日文子食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会専門委員から、鶏肉中のカンピロバクター・ジェジュニ/コリの食品健康影響評価(案)について、カンピロバクターに関する現状を交えながら、リスク評価の考え方、結果について説明
- ・会場参加者との意見交換は、参加者からの質問に登壇者が回答する形で進められ、カンピロバクターの汚染状況、生食との関係、食中毒予防の観点からの普及啓発のあり方など、幅広い視点での意見が出された

「共に考えよう。食の科学 トワイライトセミナー」

6月26日（金） <東京都港区>

- ・食品安全委員会の主催で開催し、スピーカー（畑江敬子食品安全委員会委員）から、スライドを使って、30分程度の話題提供に合わせ、参加者の皆さんから、疑問や意見を自由に「コミュニケーションカード」に書いて出してもらい、その内容について、意見交換を行った